

# 私小説家嘉村礒多の執筆にみられる食状況 —嘉村礒多全集に出現する食品及び料理について—

Foods seen in the work of Isota Kamura

—Food and the dishes which are listed in the complete works of Isota Kamura—

園田純子\* 栗野愛里\* 嶋田 梓\* 萩原幸子\* 森山沙代\*

Junko Sonoda\* Airi Kurino\* Azusa Shimada\* Sachiko Hagihara\* Sayo Moriyama\*

## 要約

山口市仁保出身の私小説家である嘉村礒多の全集を精査し、昔の仁保の食文化の参考に資するため、作品から食品名及び料理名の抽出を行った。食品としては、穀類の米、果実の柿、嗜好飲料の酒、茶が頻出していた。また、果実類や魚介類、菓子類の種類が多く見られた。料理としては、主食が最も多く、粥、蕎麦、寿司と続いた。食品としての魚の出現に比し、魚料理は少なかった。

## I 緒言

昭和初期に私小説家として活躍した嘉村礒多(1897—1933)は、山口市仁保上郷上ヶ山に生まれた。わずか6年ほどの作家生活であったが、自らの身边を題材とした短編小説や随想を発表し、日本文学史にもその名を残し、東京にて37年の生涯をとじた<sup>1)</sup>。

嘉村礒多の小説の舞台にも登場する彼の生家は、平成22年に改築された。現在、礒多の顕彰と自然体験や農業体験等のできる施設『帰郷庵』として、広く一般市民に開放され、見学・利用できるようになっている。著者らは、開設当初に食分野の体験メニューを模索していた仁保むらづくり推進協議会から、『帰郷庵』での食体験イベントへの参加を要請され、地域に根差した食育プログラムの開発にあたることとなった。

地域の食生活は、そこに住む人々によって生まれ、次の世代へと引き継がれていくものである。そこで、仁保の食文化を反映する食体験メニュー開発の一助とするため、仁保に暮らした礒多の作品より、食に関する記述として食品名および料理名を抽出し、分析を行った。

## II 方法

### 1) 対象資料

嘉村礒多の全集は、彼の没後1年足らずのうちに、昭和9年白水社より発行されている。全三巻の全集には、小説20篇、感想随筆44篇、書簡104篇が収められている<sup>2)</sup>。この全集をもとに、昭和40年に二巻本の『嘉村礒多全集』<sup>3) 4)</sup>が南風堂桜楓社から刊行された。この新全集には、旧全集に収録されなかった作品(小説3篇、随筆1篇)も収められてあり<sup>5)</sup>、今回はこの新全集を礒多の執筆作品としての対象資料とした。

### 2) 食品名および料理名の抽出

対象資料とした小説、随筆および書簡を精査し、タイトル、頁数、行数と記述されている食品名と料理名を抽出した。また、抽出結果から各食品名および料理名の出現数をまとめた。



図1 嘉村礒多全集

\*山口県立大学

\*Yamaguchi Prefectural University

Ⅲ結果および考察

食品名の抽出結果（表1）を見ると、穀類、魚介類、果実類、菓子類、嗜好飲料類の出現数が多く見られた。特に、穀類の中では米が最も多く、餅、欠餅と続いた。たんぱく質源では肉類の出現数が1回、卵類が2回だったのに対し、魚介類は27回と非常に多く見られた。野菜類は瓜や茄子、筍、および蓬（よもぎ）や蕨（わらび）といった山菜の記述があったが、果実の種類に比べると少ないという印象は否めない。礒多が父嘉村若松にあてた手紙の中には「それとも追々竹の子も生じ候間、…」<sup>6)</sup> という記述があり、山間に位置する仁保では昔からタケノコが自生し、食卓にあがっていたことが推察できた。

食品名の抽出結果で頻出する果物は「柿」である。柿は「御所柿」や「熟柿」等、柿に関するものをすべて合計すると、計43回出現していた。特に、全集（下）に収載されている随想『柿』には、「夕食のあとで、私も家のものすゝめる柿を食べて、故郷の御所柿の味を懐かしんだものだが、あれから年々胃腸が衰

弱して、今ではほとんど完全に食べる気力がなくなった。」<sup>7)</sup> という文があり、柿を通して故郷を懐かしんでいる様子うかがえた。礒多の生家『帰郷庵』には、今でも柿の木が残っており、毎秋たわわに実らせ訪れる人々を楽しませている。なお、柿とともに桃の記述も見られるが、現在仁保地区では、柿と桃は地域の特産品として出荷されている。

嗜好飲料類としては、酒と茶が多くみられた。仁保上郷地区では、茶が栽培され、古くより茶を作り茶がゆや飲料として飲食されている。帰郷庵にも茶の木があり、来訪者は茶摘み体験をすることもできる。礒多にとって茶は身近なものであったと推測される。

嗜好飲料類とともに菓子類の記述も目立っていた。当時、菓子と言えば高級品であったはずだが、礒多の全集には大福餅やキャラメルといった菓子が頻出している。これは、礒多自身が甘いもの好きであったか、あるいは礒多の生まれが裕福な家庭であったことに起因すると思われる。

表1 嘉村礒多全集からの食品名の抽出

分類	食品名	出現数	分類	食品名	出現数	分類	食品名	出現数	分類	食品名	出現数
穀類	米	17	野菜類	慈姑(くわい)	1	魚介類	鰻	4	菓子類	水菓子	1
	お餅	4		キュウリ	1		魚	3		最中	1
	柿餅(欠餅)	3		大根	1		ドジョウ	2		アイスキャンデー	1
	玉蜀黍	3		茗荷	1		かまぼこ	2		有平糖	1
	麦	2		へちま	1		鯖	2		どらやき	1
	蕎麦粉	1		蒟	1		鮎	1		饅頭	1
	メリケン粉	1		南瓜	1		鱈	1		カルケット	1
	パン	1		柿	27		鮪	1		アイス最中	1
	玄米	1		御所柿	8		海老	1	嗜好飲料類	酒	33
	くろごめ	1		梨	6		小魚	1		茶	17
いも及びでん粉類	芋	4	熟柿	4	栄螺(さざえ)	1	ビール	6			
	蒟蒻	4	莓	4	魚の頭	1	紅茶	5			
	馬鈴薯	2	梅	3	干物	1	コーヒー	4			
	里芋	1	バナナ	2	雑魚	1	サイダー	3			
砂糖及び甘味類	黒砂糖	1	林檎	2	干蝦	1	コップ酒	2			
	砂糖	1	桑葚	2	ワカサギ	1	冷酒	1			
豆類	豆腐	3	果実類	あんず	2	白魚	1	爛酒		1	
	大豆	1		五升柿	2	津蟹	1	葡萄酒		1	
	油揚げ	1		木苺	1	塩魚(さけ)	1	ココア	1		
	餡こ	1		干し柿	1	肉類	肉	1	ほうじ茶	1	
	黒大豆	1		蜜柑	1	卵類	卵	2	洪茶	1	
	種実類	銀杏		3	野苺	1	乳類	牛乳	6	ラムネ	1
栗		1		桃	1	油脂類	バター	1	唐辛子	2	
野菜類	ラッカセ	1		渋柿	1	菓子類	煎餅	6	調味料及び香辛料類	味噌	2
	瓜	2		枇杷	1		大福餅	6		山葵	1
	ナス(茄子)	2		すもも	1		キャラメル	3		醤油	1
	蓬(よもぎ)	2	きのこ類	茸(くさびら)	1		茶菓子	3			
	蕨(わらび)	2	藻類	焼海苔	1		羊羹	2			
	竹の子	2		昆布	1		柏餅	2			
	山芋	1		ワカメ	1		カルメラ焼き	2			

表2 嘉村磯多全集からの料理名の抽出

分類	料理名	出現数	分類	料理名	出現数	分類	料理名	出現数
主食	お粥	5	主菜	カツレツ	1	デザート	きんとん	2
	支那蕎麦	4		鶏卵焼	1		お団子	2
	蕎麦	4		おでん	1		お汁粉	2
	寿司	4		鮭のお刺身	1		酒饅頭	1
	お鯨	3		お煮附	1		艾餅	1
	饅頭	3		肉鍋	1	蜜豆	1	
	むすび	2		点心	1	その他	漬物(香のもの)	4
	お赤飯	1		ビフテキ	1		漬け梅	2
	海苔巻	1		蒟蒻や鱈の煮メ	1		すり大根	2
	お釜の飯	1		副菜	佃煮		2	くず湯
	カレーライス	1	葱の壷物		1		鯛味噌	1
	握飯	1	寄せ物	1				
	四角な押寿司	1	山葵の白壷	1				
	天井	1	膾	1				
	ご飯	1	汁物	味噌汁				
鰻めし	1	雑煮		2				

料理名の抽出結果（表2）では、主食の出現回数が目立ち、最も出現数が多かったのは「お粥」の5回であった。以下、蕎麦、寿司、饅頭と続いていた。食品名で抽出した魚介類の種類の数に比べ、魚料理は「刺身」「煮付け」「煮メ」と少なかった。料理作りに携わっていない磯多にとって、料理名については、印象に残っているもの、あるいは好物のものに限られたのではないかと推察される。寿司やビフテキ、肉鍋等の記述がみられるところから、磯多の裕福であった家庭環境の影響もうかがえた。

磯多の『崖の下』という作品には、「小さな机を茶餉台代わりにして好物の葱の壷物（あえもの）を肴に、サイダーの空壇に買って来た1合の酒を酌み交はし、心ばかりの祝をした。」<sup>8)</sup> という一文がある。この葱の壷物というのは、山口県内でも昔から食され<sup>9)</sup>、仁保でもよく食べられている「ぬた」のことではないかと推察される。

今回、磯多の全集に収載されている小説および随筆、書簡を通じ、磯多の食状況の一端を垣間見ることができた。すべてが仁保での生活を描いたものではないため、純粋に仁保の食文化を探ることはできなかったが、私小説家の磯多であるゆえに、その筆を通して、東京での生活や郷里への想いを知りえたと考える。

昭和初期に東京等の都会ではすでにバナナや支那蕎麦、ビール、カレーライス、点心、パン、バター、

葡萄酒、ビフテキ、コーヒー等の諸外国から伝わってきた食事が食べられていたことがわかった。磯多自身が裕福な家庭のためか、もしくは甘いもの好きのためかは定かではないが、全集中に当時は高級品であったはずのお菓子や甘い食品が頻出した。また、現在仁保でもよく食されている押し寿司や葱の和え物等も出現し、昔から食べられていたことがわかった。

以上、磯多の全集から抽出できた食品や料理名をふまえ、現在の仁保地区での食に関する聞きとり調査を加えて、食体験メニュー開発にあたることとした。

最後に資料として、磯多の全集上下巻に出現する食品及び料理の一覧を表3表4に示す。

なお、この研究は山口県中山間地域元気創出若者活動支援事業の助成を受け、仁保むらづくり推進協議会と山口県立大学との共同研究として取り組んだ食育プログラム開発の一環として行ったものである。

#### 謝辞

嘉村磯多の全集に関しましてご協力いただいた山口県立大学国際文化学部文化創造学科 加藤禎行講師、および本研究を遂行するにあたりご協力いただいた仁保むらづくり推進協議会に厚く御礼申し上げます。

表3 嘉村磯多 全集（上）に出現する食品及び料理

タイトル	頁	行	食品名	料理名	タイトル	頁	行	食品名	料理名	タイトル	頁	行	食品名	料理名			
業苦 (大正14年4~11月)	4	2	牛乳		曇り日(昭和3年)	181	13	海老		夏近し(昭和6年夏)	367	5	牛乳				
	4	2	煎餅			181	13		鶏卵焼		367	11	お茶				
	6	11		お粥		181	13	蒲鉾			367	11	番茶				
	7	8	米			181	13		きんとん		七月二十日の夜(昭和6年)	376	14	アイスキャンデー			
	10	4		お赤飯		181	13		寄せ物			378	2	キャラメル			
	12	2	酒			183	2		お鮓			378	3	キャラメル			
	25	7	バナナ			184	15	林檎				378	16	キャラメル			
	25	9	バナナ			187	3	ビール				382	11	ビール			
	26	1		香のもの		187	5		おでん			385	3	サイダー			
	27	8	水菓子			190	16	大福餅				406	14	柏餅			
	29	11		支那蕎麦		190	16	渋茶				406	14	柏餅			
	29	14		支那蕎麦		199	2	油揚げ				407	7	牛乳			
	30	13		支那蕎麦		199	2	豆腐				421	11	有平糖			
	31	3		支那蕎麦		199	3		山葵の白塗			423	14	お米			
37	2	煎餅		200	9	最中		424	8	お米							
43	6	煎餅		不幸な夫婦(大正11年末)	235	12		味噌汁	途上(15才~34才まで)	434		9	ビール				
44	4	煎餅			235	13		すり大根		437		8	ビール				
45	5		蕎麦							442	6	柿					
45	5		葱の壷物							444	2	お茶					
45	6	サイダー			父の手紙(大正14年・昭和3年)	242	4	栗			444	2	お茶	点心			
45	6	酒				242	11	お米			444	5	お茶				
61	6	唐辛し				242	12	御米			452	4	豆腐				
65	1	大福餅				242	13	御餅			452	6	お米				
66	6	ナス				243	4	お米			459	5	大豆				
66	6	キウリ				243	4	お餅			461	1	ワラビ				
66	7	ドジョウ				243	4	山葵			466	5	紅茶				
66	7	ドジョウ				243	4	山芋			466	5		ピフテキ			
崖の下(大正15年9月)	83	15	柿餅				七年目に(昭和5年元旦)	257		2		鮓のお刺身	来迎の姿(昭和6年秋)	466	5		蕎麦
	83	15	茶					257		2		お鮓		467	6		蕎麦
	92	4	芋			257		2		お煮附	468	13		酒			
	93	1	蕎麦粉			257		4	慈姑		468	15		酒			
	94	7	麦			257		9	酒		469	4		酒			
	97	9	冷酒			259		3		雑煮	476	12		里芋			
	父となる日(昭和4年1月)	103	2	味噌		266		5	館こ		476	13			握飯		
		103	8	柿		266		6		お団子	481	16		牛乳			
		105	1	茸(くさびら)		271		7	お茶		481	16		メリケン粉			
		105	15	木苺		277		12	煎餅		481	16		玉子			
		105	15	蓬		277		12	煎餅		482	6			艾餅		
		106	12	干物		277		14	米		482	7		よもぎ			
		109	7	かまぼこ		281		4	肉		501	12		玉蜀黍			
		111	10	酒		282		12	お茶		501	13		梨			
114		3	酒		282	12		酒饅頭	501	14	お栗						
115		8		カツレツ	283	4		お汁粉	母(昭和7年)	508	12		栗のきんとん				
118		9	羊羹		283	5		漬物		短編三つ(昭和6年)	516	8	精米				
118		9		佃煮	283	5		佃煮			517	2	黒大豆				
119		2	干し柿		285	4		肉鍋			521	8	鯖				
120		11		粥	285	14		お釜の飯			524	10	煎餅				
121	5	大福		288	8	芋		524			12	煎餅					
122	9	酒		315	10	蕨		525			16	鯖					
124	6	鮎		315	10	竹の子		526			1		膾				
124	9	鱒		315	11	桑苺		神前結婚(昭和7年元旦)			526	1	大根				
125	11	鮪		315	11	野苺					526	3		四角な押寿司			
128	11	柿		315	11	柿					528	3	紅茶				
129	2		鱧鮓	315	11	桃					535	9		寿司			
136	3	卵		315	16		団子				535	10	酒				
144	3		海苔巻	316	11	お米					535	10	酒				
144	4	蜜柑		331	10		カレーライス		535		15	お酒					
足相撲(大正15年)	162	1	酒		丸橋とのこと(昭和4年初)	335	14		熟柿		移転(昭和7年夏)	536	2	酒			
	162	2		小蕪の漬物		344	5		小魚			537	5	酒			
	162	2	焼海苔			345	6		銀杏			548	11	ワカメ			
	162	2	酒			345	7		銀杏								
	162	3	酒			345	7		銀杏								
	162	4		蕎麦		345	8		銀杏								
	162	8	酒			354	1		菜蝶(さざえ)								
	162	13	熟柿			354	15	サイダー									
	162	15		蕎麦		354	15	ラムネ									
	163	15	酒			358	3	ビール									
	167	9	酒			361	12	昆布									
						361	12	魚の頭									

表4 嘉村礒多 全集(下)に出現する食品及び料理

タイトル	頁	行	食品名	料理名	タイトル	頁	行	食品名	料理名	タイトル	頁	行	食品名	料理名	
呪われた子 (大正12年4月)	578	10	唐辛子		柿 (昭和6年12月)	750	2	柿		初秋スケッチ (昭和7年9月)	786	5	芋		
父の家 (昭和8年3月)	596	12		天井		750	3	柿			789	1	柿		
	600	5		蒟蒻や鱈の煮		750	6	柿			789	3	柿		
	602	3		雑煮		750	7	柿			789	4	柿		
	602	11	爛酒			750	9	柿			789	6	柿		
	602	15	米			750	10	柿			790	15	柿		
	604	8	黒砂糖			750	10	御所柿			790	16	柿		
	604	12	欠餅			750	10	御所柿			791	2	柿		
	604	13	欠餅			750	10	五升柿			794	1	豆腐		
	615	4	米			750	11	渋柿			794	2		饅頭	
	618	6		むすび		750	12	御所柿		794	2		饅頭		
636	4	鯖		750		12	五升柿		794	14		お寿司			
妻が語った話(昭和8年7月)	643	12	雑魚			751	1	御所柿		ある古本屋のこと(昭和7年12月)	800	7	へちま(いと二つに瓜)		
冬の午後 (昭和8年9月)	650	2		お粥		751	2	柿			私は都会賛美者になった (昭和7年12月)	808	3	蕎麦	
	650	2	パン			751	3	柿				808	3	魚	
	650	2	バター		751	3	熟柿		808			8	紅茶		
	650	3		ご飯	751	5	御所柿		808			8		蜜豆	
	650	5		お粥	751	6	御所柿		808			8	大福		
	650	5		くず湯	751	7	お茶		808			10	コップ酒		
	650	5		鯛味噌	751	7	柿		雨天 (昭和8年3月)			823	4	牛乳	
	654	9	蒟蒻		751	15	柿					824	12	カルケット(お茶請け)	
	654	9	蒟蒻		751	16	柿		追憶 (昭和8年6月)			835	11	紅茶	
	654	11	蒟蒻		752	2	柿			837		13	酒		
655	2	蒟蒻		752	4	柿		裏町の夏 (昭和8年8月)	840	10	魚				
657	13	葡萄酒		753	1	柿			840	11	津蟹				
681	3	お餅		753	2	柿			840	12	魚				
七月の日記 (昭和5年7月)	683	6	コーヒー		754	1	柿			840	12	魚			
	684	3	コーヒー		754	1	御所柿			840	14	鰻			
	684	5	コーヒー		754	2	御所柿			840	15	鰻			
日記抄(昭和5年12月)	684	5	ココア		754	2	御所柿			840	15	鰻			
	691	10		お汁粉	754	2	紅茶			841	6	アイス最中			
	691	10		お汁粉	757	2	紅茶			841	10	お米			
日記抄など(昭和6年3月)	698	6	酒		小惑 (昭和7年2月)	763	15		カルメラ焼き		八月二十八日の日記 (昭和8年10月)	847	3	玉蜀黍	
	698	10	酒			764	2	カルメラ		874		4		鮭	
	699	5	茄子		武者小路実篤 (昭和7年7月)	765	3	大福		書簡 (大正11年1月13日)	900	4	茶		
	699	5	瓜			779	11	林檎			書簡 (大正11年5月8日)	917	14	茶	
	699	5	馬鈴薯		茶の花 (昭和7年8月)	781	6	お茶				917	14	果物	
704	3	お茶		781		7	ほうじ茶		918			3	御茶		
ひとりごと(昭和6年3月)	713	4	玉蜀黍			781	7	砂糖				918	3		寿司
	713	4	玉蜀黍			781	12	麦				918	16	酒	
再び故郷に帰るゆきこ(昭和6年4月)	729	15	生肉			782	1	一番茶			書簡 (大正11年8月3日)	936	11	南瓜	
	729	15	生肉			782	2	二番茶				書簡 (大正11年10月20日)	950	14	酒
土浦の町を歩く (昭和6年8月)	733	2	干蝦			782	2	三番茶			書簡 (大正11年12月11日)		954	11	
	733	2	ワカサギ			782	4	茶の葉				964	8	竹の子	
	733	2	白魚			782	7	米		書簡 (大正12年5月10日)		967	6	酒	
	733	6	どらやき			782	11	味噌				968	7	米	
	733	6	どらやき			782	12	醤油		968		16	塩魚(さけ)		
	733	8		鰻めし		783	2		漬け梅	書簡 (大正12年5月31日)	972	1	ビール		
	733	8	鰻			783	2		漬け梅		クリスマス晩 (昭和6年11月)	743	9	熟柿	
738	16	コーヒー		783		3	梅の実		745	2		栗羊羹			
738	16	コーヒー		783		4	枇杷								
「上ヶ山」の里 (昭和6年)	740	11	饅頭		783	4	あんず								
	741	3		むすび	783	4	すもも								
クリスマス晩 (昭和6年11月)	743	9	熟柿		783	4	山桃								
	745	2	栗羊羹		783	5	梅								

タイトル	頁	行	食品名	料理名	タイトル	頁	行	食品名	料理名	タイトル	頁	行	食品名	料理名
書簡 (大正12年8月3日)	976	13		お粥	書簡 (大正14年秋)	1022	11	なし		書簡 (昭和3年春)	1040	10	おかし	
	979	7	茶菓子											
書簡 (大正12年10月11日)	988	8	玄米		書簡 (大正14年秋)	1022	17	酒		書簡 (昭和3年3月25日)	1041	6	御酒	
						1023	1	酒						
書簡 (大正12年10月19日)	991	7	くろごめ		書簡 (大正14年秋)	1024	8	なし		書簡 (昭和3年夏)	1042	4	コップ酒	
書簡 (大正13年6月1日)	1000	12	苺		書簡 (大正14年11月6日)	1025	8	米		書簡 (昭和3年10月5日)	1044	6	梨	
	1000	13	苺			1026	14	酒			1044	7	梨	
	1001	1	苺		書簡 (大正14年12月31日)	1027	7	お餅			書簡 (昭和4年2月3日)	1048	9	ラッカセ
	1001	1	西洋苺											
	1001	6	苺		書簡 (大正15年7月)	1032	6	米		書簡 (昭和8年6月7日)	1074	1	お茶	
	1002	5	馬鈴薯											
	1002	5	芋類											
書簡 (大正14年6月)	1016	2	酒		書簡 (大正15年12月13日)	1035	7	カシ						
	1020	7	酒											
	1020	8	酒											

参考文献

- 1) 多田みちよ著：「嘉村礒多－「業苦」まで」  
P12 皆美社（1997）
- 2) 多田みちよ著：「嘉村礒多－「業苦」まで」  
P22 - 23 皆美社（1997）
- 3) 嘉村礒多著, 太田静一他編：「嘉村礒多全集」(上)  
南雲堂桜楓社（1964）
- 4) 嘉村礒多著, 太田静一他編：「嘉村礒多全集」(下)  
南雲堂桜楓社（1965）
- 5) 多田みちよ著：「嘉村礒多ノート」P103 - 105  
黒潮社（2002）
- 6) 嘉村礒多著, 太田静一他編：「嘉村礒多全集」(下)  
P964 南雲堂桜楓社（1965）
- 7) 嘉村礒多著, 太田静一他編：「嘉村礒多全集」(下)  
P754 南雲堂桜楓社（1965）
- 8) 嘉村礒多著, 太田静一他編：「嘉村礒多全集」(上)  
P45 南雲堂桜楓社（1964）
- 9) 中山清次他編：「日本の食生活全集 35 聞き書  
山口の食事」農山漁村文化協会（1989）